



SSH&国際探究ニュース

SSH & Global Education Reports

ノーベル賞受賞者を囲むフォーラムに参加しました!

7月12日(日)、東京大学安田講堂にて開催された、読売新聞社主催のノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「次世代へのメッセージ ～未知なるものを追い求め～」に本校生徒26名が参加しました。フォーラムでは、2025年にノーベル生理学・医学賞を受賞された大阪大学特任教授の坂口志文先生、そして同じく2025年にノーベル化学賞を受賞された京都大学特任教授の北川進先生による基調講演が行われました。2人の日本人ノーベル賞受賞者の生の声をライブで直接聴くことができる大変貴重な機会となりました。また、講演会の開始前には、協賛企業の日本電子株式会社による電子顕微鏡体験会に本校生徒5名が参加。最先端の分析機器を実際に操作しながら、事前に選択した好きなサンプルを高解像度で観察するという貴重な体験をすることができました。それでは、現地で最先端の科学に触れた生徒たちの生の声をご紹介します!



～坂口志文先生の講演を聴講して～

坂口志文先生のご講演を通じて、制御性T細胞についての知見を得ることができました。また先生の研究が、がん治療をはじめとする将来の医療や社会に大きく貢献していることを知り、研究が社会にもたらす影響力の大きさを実感しました。一方で、研究成果が発表された当初は多くの批判もあったと伺い、新しい考えが受け入れられるまでには時間がかかり、人が自分の発想を納得するまで追求していくにはさらに粘り強さが必要であると学びました。先生のお話を受け、私もこれから、自分自身が納得できるまで考え抜き、探究し続けることを一つの目標に、研究活動に励んでいきたいと思いました。貴重なご講演をありがとうございました。

～北川進先生の講演を聴講して～

北川先生のご研究については、テレビやネットニュースで少し拝見した程度で、詳しくは知りませんでした。しかし、MOF: Metal-Organic Framework(有機金属構造体)のモデルや動画を用いたユーモアあふれるご講演のおかげで、とても理解が深まりました。私も、聞き手を引き込む魅力的なプレゼンをしたいです。また、すでに多くの国や分野でMOFが実用化されていると知り、その可能性の大きさに驚くとともに、とてもわくわくしました。特に印象に残ったのは、多くの人と関わり、本を読み、多くの物語を知ることの大切さです。それが「prepared mind」につながり、物事を深く理解し自分の言葉で伝える力になるのだと感じました。本日は貴重なお話をありがとうございました。

～電子顕微鏡体験会に参加して～

今回使わせていただいた走査電子顕微鏡は、非常に高画質で観察しやすく、タッチパネル操作や大変なピント合わせを自動で行ってくれるなど、電子顕微鏡は操作が難しいというイメージを抱いていましたが、学校の授業で使った光学顕微鏡よりもずっと扱いやすく驚きました。私は、チンチラの毛を観察しましたが、健康的なヒトの毛でもキューティクルが少し乱れているのに対して、手入れもされていないチンチラの毛のキューティクルが非常に整っていて、さすが高級毛皮だと実感しました。最先端の機械を実際に扱わせていただけるという、大変貴重な経験をありがとうございました!

